

オリンピックやパラリンピックについて 学ぶ in パナソニックセンター



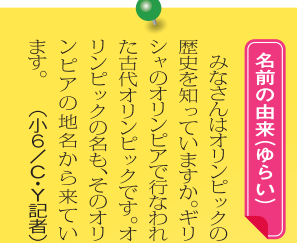
オリンピックの始まり
 オリンピックは約800年前(紀元前776年)が最初、病気や戦争などをなくするためにギリシャの「オリンピア」で行なわれた競技大会が始まりました。
 (中ノK記者)



クイズに挑戦しながら歴史を学ぶ

重要な役割だった聖火!
 私たちでも記者は5月12日にパナソニックセンターに取材に行きました。オリンピックの聖火(せいかり)は開催地である皆さんの手つながりです。そして、聖火を渡して、最後に聖火台につけます。聖火の火は太陽の火だそうです。お道具という道具で光を集め、火をつけています。火は聖火台につけてから17日間燃え続けます。リオ大会のトーチを実際に持ってみたいと思ったより重かったです。
 (小6/T.O記者)

リンピックと近代オリンピックがあります。それは1500年間オリンピックを行なわなかったときがあるからです。復活させたのは、ピエール・ド・クーベルタン。お互いが知り合いになり仲良くなる。そして世界平和をつなげていこうという目的で復活させました。
 (中ノK記者)



みなさんはオリンピックの歴史を知っていますか? ギリシャのオリンピアで行なわれた古代オリンピックです。オリンピックの名も、そのオリンピアの地名から来ています。
 (小6/C.Y記者)

1936年のベルリン大会から聖火リレーが行われました。最終走者は国を象徴する人から選ばれています。昔、聖火は神から人類へ与えられた大切なものとされ、古代オリンピックでは重要(じゅうよう)な役割でした。聖火は伝統がもたらした貴重なものだと思います。
 (中ノA.S記者)



意外とズッシリ!!

だいたい同じ。聖火を運ぶために使うトーチは買っただけで持ちました。2008年のトーチは72cm(北京のトーチは短いものや長いものも有る)、リオオリンピックのトーチは色々長さが変わってすごいです。
 (小4/H.F記者)



一流選手(100m走)の歩はばにびっくり!

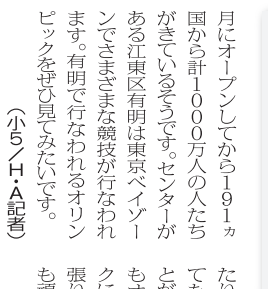


パナソニックセンターと理念
 パナソニック・パラリンピックのことがわかりやすく体験でき、学ぶようになっていきます。ワークショップでは昔のオリンピック・パラリンピックのこと、聖火のことなどわかりやすく教えてくれました。聖火リレーの時に持つトーチを特別に持たせていただきましたが、意外と重かったです。片手で走るのには結構大変な感じがしました。
 (小5/C.K記者)



めざせ! オリンピック博士!!

パナソニックの理念(れん)がオリンピックの理念が似ていたため、パナソニックは30年以上100人に選手村で使うエアコンや冷房など、会場に使う防犯カメラなどを提供(ていきょう)しています。パナソニックセンターを使ってオリンピックを中心としたことをしようかして、2020年9



説明をいただいた阪本(さかもと)さん(左)と夏苺(なつがり)さん(右)

月にオープンしてから191ヵ国から計1000万人の人たちが来ているそうです。センターがある江東区有明は東京ベイゾーンでさまざまな競技が行なわれます。有明で行なわれるオリンピックをぜひ見てみたいです。
 (小5/H.A記者)

働いている人たち、みんな楽しんでいる。学ばない、ということや楽しく学ばない、ということから、これから私もオリンピック・パラリンピックについて、たくさん勉強して頑張りますが、パナソニックの方も頑張ってください。
 (小5/Y.T記者)

オリンピック・パラリンピック こども新聞

第4号

平成30年(2018)
 9/1

2面

・ブラックラムズのグラウンドをたずねて



3面

・スポーツセンターリニューアル
 ・ウィルチアールラグビー取材



4面

・東京アスリート認定式
 ・伝統芸能「新能」取材



5面

・オリンピックとハチミツ
 ・JOCサーフィン大会

